

広報

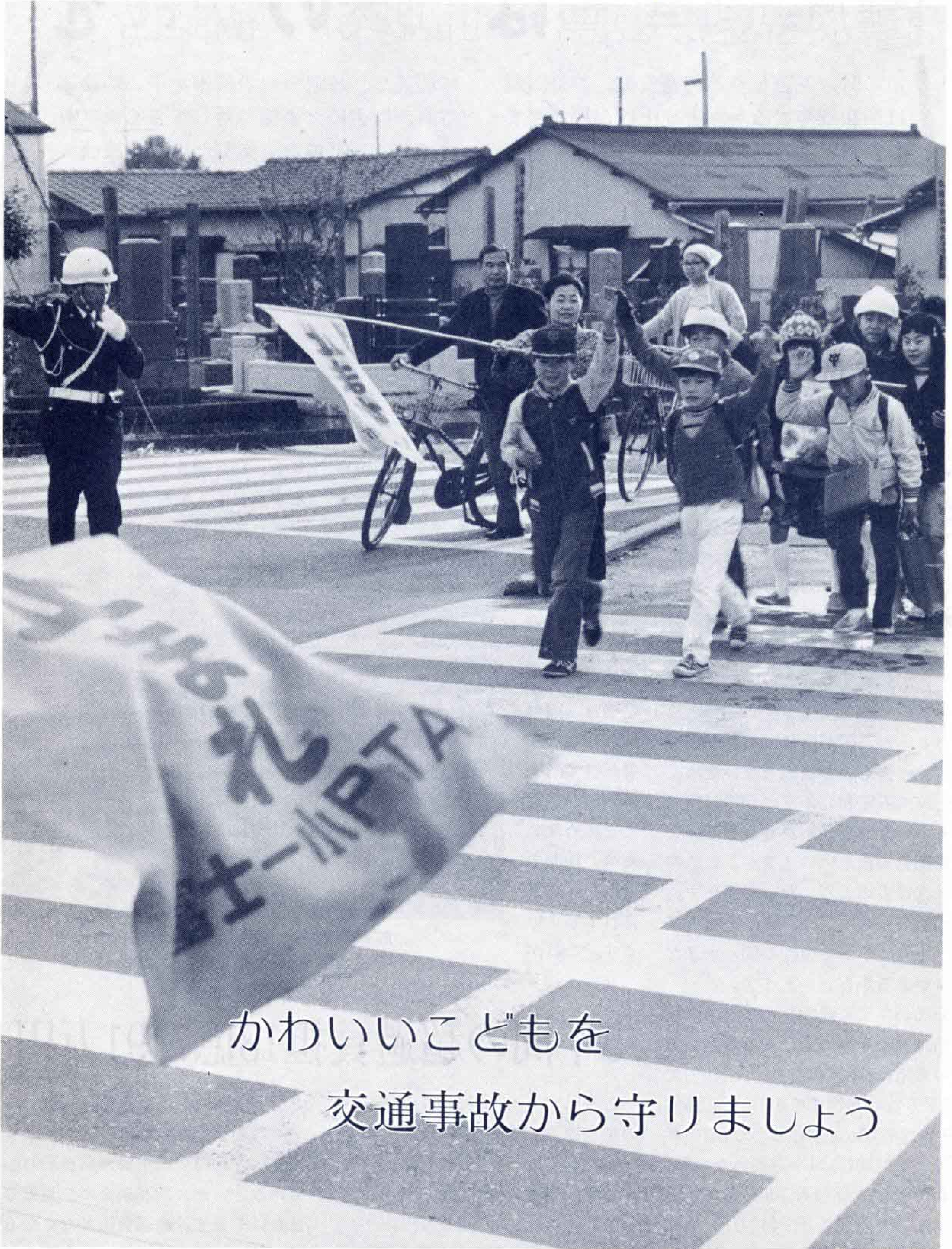
心し

NO. 177

50.3.25 発行

発行・富士市役所
富士市永田61-1

編集・
企画調整部広報広聴課
【毎月5日と25日発行】



かわいい子どもを

交通事故から守りましょう

市の財政を苦しめる超過負担

超過負担は市民の税金を

市の財政を苦しめる超過負担。この問題は昭和40年ごろからとり上げられてきましたが、地方財政の危機が叫ばれている今日、とみに声が大きくなってきたことは皆さんご承知のとおりです。当市でも3月定例市議会において、市の財政問題

に関連し、超過負担の解消を中心に論議され、改善のため国に対して強く働きかけていくことになりました。この機会に超過負担問題にスポットを当て、みなさんと考えてみたいと思います。

超過負担の原因は…

市の仕事には、道路の整備や公民館、学校、保育園の建設、福祉事業などいろいろあります。このなかには、義務教育、保育、国民年金など国が責任をもってやらなければならない事業もたくさんあります。市でこれらの事業を行うには当然お金がかかるので、法律によって必要な金額を国が負担することが定められています。

ところが、国が法律にもとづいて負担すべきものを負担しないため、富士市でも昭和48年度に5億6414万円も余分なお金がかかりました。これを超過負担といいます。この内容は次頁表のようになっています。

超過負担の原因は、国が定める基準と実際にかかる金額の間に大きな開きがあるからといえます。

昭和48年度に建設した岳陽中学校の給食施設を例に上げてみると、実際の費用は1平方メートル当たり7万3739円で261平方メートルの建物ですから1924万5879円かかっています。しかし、国の算定による補助額は1平方メートル当たり4万4240円とし、面積も100平方メートルしか必要ないということで442万円。補助はこの2分の1で221万円が交付されたにすぎません。

このように、1平方メートル当たりの単価で2万9499円の開きがあり、給食の設備をととのえるに必要な面積も実際より161平方メートルも狭く見積っています。これを「単価差」「数量差」といいます。また学校建築などの場合、国の補助対象は校舎だけで門やへい、備品などを認めないため、補助の対象から除外されてしまいます。これが

「対象差」となります。

このほか、施設の建設事業ばかりでなく、国から義務づけられている機関委任事務（国民健康保険、国民年金、統計調査など）の処理にあたる事務員の人数や運営費も少なく算定されています。



超過負担をなくさなければ
学校建設も思うようにできません

5年間の超過負担18億7491万円

こうしてでた超過負担は、富士市の場合過去5年間を見ると

- ・昭和44年度 1億5969万円
- ・昭和45年度 2億4098万円
- ・昭和46年度 3億9903万円
- ・昭和47年度 5億1107万円
- ・昭和48年度 5億6414万円

合計18億7491万円にものぼっています。この大変な金額は、当然国が支払うべきもので、市民が肩がわりしているといえ、国が税金の二重どりとともいえます。超過負担がなくなるだけでも、沢山の学校や保育園などの福祉施設が出来ます。

国が二重どり

全国革新市長会が 解消を要請

全国知事会や革新市長会などは、「地方財政が苦しいのはこうした超過負担が積もり積もった結果だ」として、超過負担解消を強く働きかけてきました。これに対し政府は、「地方財政が硬直化したのは人件費の膨張が原因」と主張し、人件費引き下げを迫って、論議されています。

いずれにしても、地方公共団体が補助事業などを実施する場合、国庫補助負担金の補助基準が、地方の実情に合わず、超過負担が増える一方で、市町村の台所を苦しめています。

昨年、当市の市長も参加している全国革新市長会は、インフレに反対し、市民のくらしと地方自治を守る立場から、①超過負担の解消について②地方公務員の給与改定について国に強く要求する運動を展開しました。これに対し、国から6項目の合

意事項が出され、大きく前進しました。合意事項のうち超過負担の解消については

- ①今年度の実態調査の結果に基づいて、超過負担解消のため最大限の努力をする。
- ②新年度予算においても引続き超過負担解消の努力をする。
- ③超過負担解消のため、地方関係団体において委員会を設置するときは、関係各省庁は随時これに出席して意見の交換、協議を行うよう自治省が努力する。自治省はこの委員会に委員として参加する。
- ④既住の超過負担分については調査検討する。

税財政制度の改正を

超過負担をなくさせる運動は、国と自治体の財政民主化を確立させるものですが、この問題を足場にして市民本位の税財政の道を確立することも重要な課題となっています。

市民のみなさんがいろいろな名目で納める税金を100とするとこの内67.5は国税として税務署へ納め、自治体には32.5、地方税として県へ17.2、市へ15.3納められる勘定になります。ところが実際の仕事で使われる予算になると、総予算の

うち国が30、自治体70で、逆になります。これはいったん国に入った資金が、地方交付税、国庫支出金などの名目で自治体に配分されてくるからです。しかし、富士市は不交付団体なので、普通地方交付税は1円ももらっていません。

自治体は国全体の7割の予算を使うわけですが、市民のみなさんのために自主性をもって使えるのは、住民税、固定資産税などの「地方税」と、国から配分される財源の一部し

かありません。

「3割自治」といわれるように、市の予算の3割ほどが、市民福祉のために自主的に使えるだけで、あとは国からの「ひもつき」であったり、使い道が決められている財源です。とくに国から配分されてくる国庫支出金の中味は、仕事の実情とかけはなれているため、市はわずかな自主財源を削って、国からの財政不足につきまなければならない。

このように国と自治体との不公平な税財政制度を根本的に改ためて、市民生活に直接つながっている自治体財政を強めることが、いま緊急に求められている課題です。

富士市の昭和48年度超過負担額 総額5億6414万円





南富士ゴルフ倶楽部が

公道や河川までもゴルフコースに

県や市の行政方針を無視して、南富士ゴルフ倶楽部が大淵丸火東地先でゴルフ場の建設を進めていることは、みなさんご承知のとおりです。ところが、このゴルフ場の中には、5本の公道と河川もありますが、これらの公共物まで破壊し、ゴルフコースとして造成しています。

個人の権利を主張して、国民の財産を自分のものにしてしまう。こんな勝手なことを絶対許しておくわけにはいきません。そこで、県や市は再三にわたって公共物をもとどおりにするよ

う命令を行ってきました。

また1月29日には、富士市町内会連合会から渡辺市長に「富士市の自然を守るため、富士・愛鷹山麓の自然を破壊する南富士ゴルフ場の造成工事阻止について」の陳情が出されました。

市はなんとしてもこのゴルフ場の建設を阻止してまいりますので、これからも市民のみなさんの力強い援助をお願いいたします。それでは市が、富士・愛鷹山麓の開発規制をした経過と南富士ゴルフ場についてお知らせいたします。

行政方針を無視して 造成を強行

昭和47年ごろから、富士市内の富士山や愛鷹山麓地域に、ゴルフ場の造成を主体にした開発計画が相次いで起りました。なかには、活発に土地買収をはじめた会社もあり、当時標高400㍍から900㍍にかけた地域で約1400㍍（人口にして20万人位が住める広さ）にも及ぶ広大な山林が開発されようとしていました。そのままほ

おっておけば国有林や市有林をのぞいて、ほとんどが大資本の手に渡りかねませんでした。

そこで市は、富士・愛鷹山麓の乱開発を防止し、自然環境保全と効果的な土地利用をはかるため、山麓地域の科学的専門調査を行う一方、48年3月から翌年3月まで、土地利用計画の審査を保留しました。科学的専門調査は、地形・地質・地下水・河川、植生、生物相、気象、土地保全住民意識などあらゆる面から行いま

この調査の結果、調査委員会から「ゴルフ場、レジャー施設、別荘地などの大規模開発が計画されている地域は自然環境保全、災害防止上から、すべて保全すべき区域で、一定規模をこえる開発行為は一切認めない方針で進むべきである」と提言されました。

市は、この調査結果の主旨を尊重し、昨年4月1日、富士・愛鷹山麓地域の自然を守るため、標高200㍍以上、10㍍以上の大規模開発を認めない行政方針を打ちだしました。この

ため、ほとんどの企業が市に協力して開発計画を断念しましたが、南富士ゴルフ倶楽部だけは、市の方針を無視し、ゴルフ場の造成を強行しています。

この間、市は再三にわ

たって工事を中止するよう申入れしましたが、私有権を主張してどんどん造成を行い、公道や河川までも破壊しその原形もほとんどわからなくなりコースの一部になってしまいました。

県市が公共物の復元を命令

県も富士市のゴルフ場問題を9月県議会で取り上げ、市とまったく同じ方針で進むことを決めました。そこで県と市は、南富士ゴルフクラブに対し、10月24日と25日、第1回目の公道や河川の原状復元命令書を出しました。命令書は、ゴルフ場の造成で破壊された公道や河川が、公共物として

の機能を保つことができるように求めたものです。

また、市民団体も立ち上がり、9月16日、現地で抗議集会を開きました。これに続いて、10月27日と11月23日の2回、ゴルフ場の造成で公道が破壊されてしまうのを防止するため、公道との境にクイ打ちを行いました。

公共測量で公道や河川的位置を確認

県と市が出した公共物の原状復元命令書に対して、南富士ゴルフ倶楽部からは、公道や河川的位置がはっきりしないので指導してほしいという回答がありました。このため

県は、1月16日から19日までの4日間、法律に基づく公共測量を行いました

作業は地図や航空写真などで確認した公道や河川を実測して、クイを打ち国有財産であることを示す看板を立てました。ゴルフ場内の公道は5本で延べ5.5km、河川は滝川の支流で約500mあります。

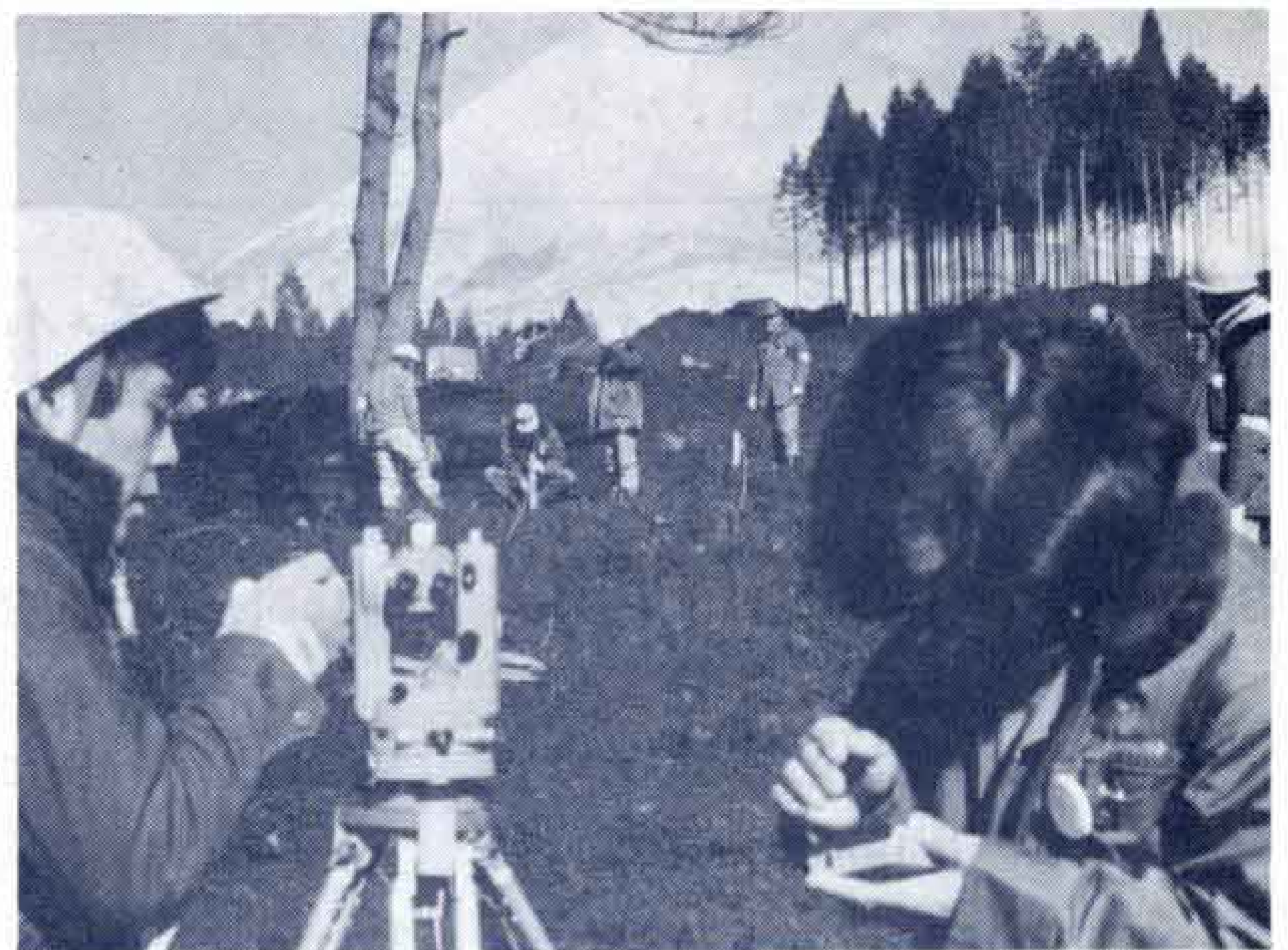
この公共測量でゴルフ

場内の公道と河川がはっきりしました。そこで、県と市は3月4日と5日、公共測量にもとづいて再び公道と河川の原状復元の指示を行いました。

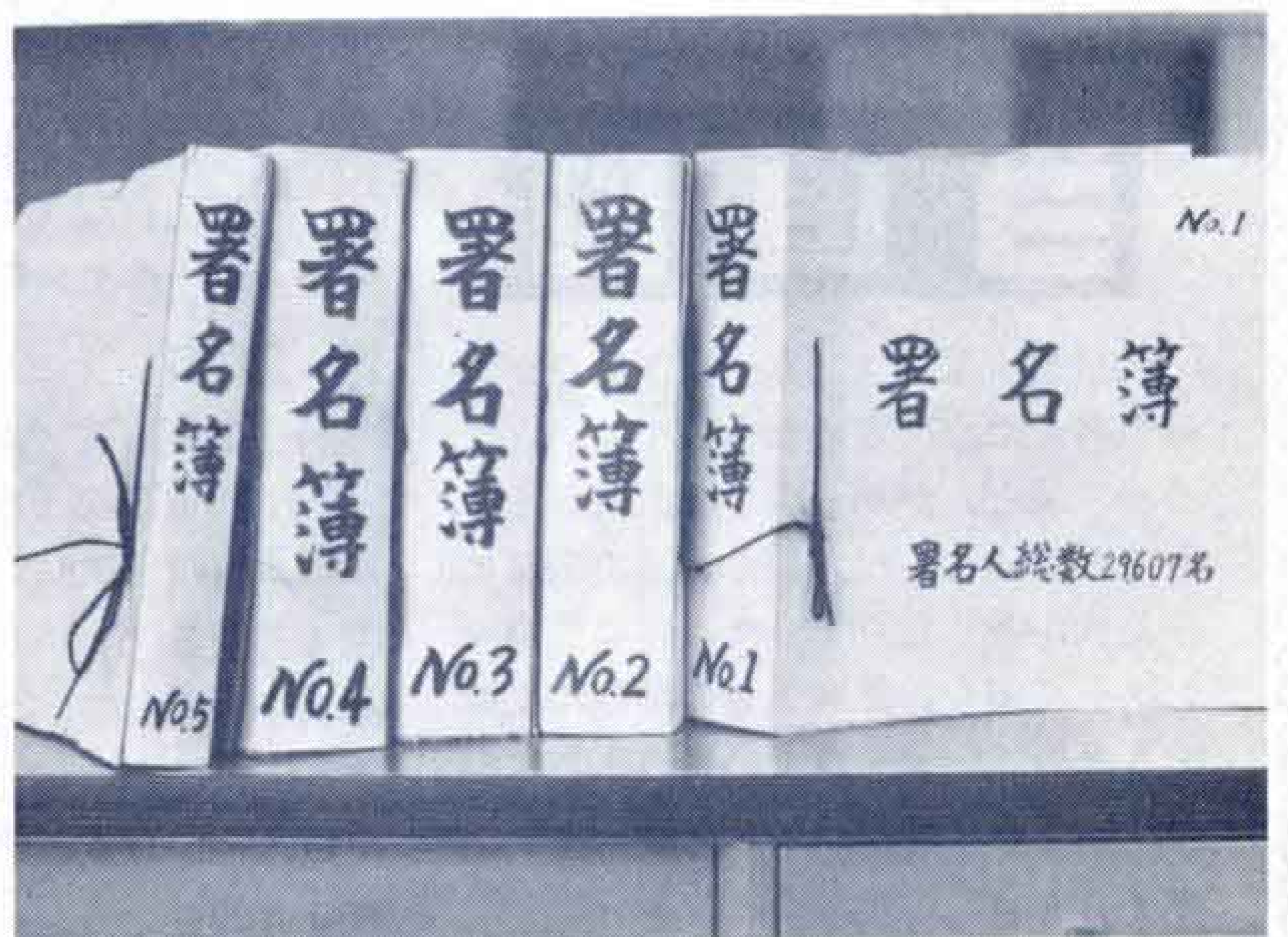
内容は公道や河川が本来の役割をはたすことができるように、これらに布設されているものを撤去し、原状にもどせというものです。もし、南富士ゴルフがこの原状復元の指示に従わなかった場合は、富士市普通河川条例をはじめ、公共物を保全させるための関係法令によって、強い措置をとることとしています。



昨年10月27日、「ゴルフ場建設に乱開発を許すな」と市民団体も立ち上がり公道との境にクイ打ち



1月16日から19日までの4日間、ゴルフ場内の公道や河川のはっきりした位置を示すため県が公共測量



1月29日、富士市町内会連合会から29,607人の署名を添えて南富士ゴルフ場の造成工事阻止について陳情

富士由比バイパス全線開通

国道1号線の交通渋滞を解消し、沿道の交通環境を改善するため、建設をはじめた富士・由比バイパス。未通区間となっていた藤沢薬品南側から、今井の富士東インターまでの2.11kmがこのほど完成し、4月1日午後3時から全線使用開始となりました。

富士・由比バイパスは、今井から由比町までの総延長21.4kmで、前田～五貫島間、由比町寺尾～清水市興津東町間をのぞく区間は全線立体交差となっています。なお、バイパスは将来全線4車線になりますが、一

部をのぞいて2車線しか完成していませんので、2車線を暫定的に対面交通で利用していただきます。

富士川橋が 24時間営業に

バイパスの富士川橋は、現在午後10時から午前6時まで夜間無料となっていますが、全線開通にともない4月1日から24時間営業となります。



証明書などの手数料を値上げ

…… 4月1日から実施……

富士市手数料徴収条例の一部が4月1日から改正され、証明書などの料金が次のようになります。

■40円から70円になる証明

- ・身分に関する証明
- ・生存、不在、失そうに関する証明
- ・住民基本台帳に関する証明

■50円から100円になる証明

- ・印鑑に関する証明

■50円から70円になる証明

- ・外国人登録に関する証明
- ・租税、公課に関する証明
- ・資産に関する証明
- ・営業に関する証明

- ・法人に関する証明
- ・在学、修学に関する証明
- ・土地その他被害に関する証明
- ・公簿、公文書、函面に関する証明
- ・公簿、公文書、函書の謄本又は抄本
- ・その他の証明

公簿、公文書の閲覧は従来通り50円です。

なお、土地、建物の証明で、これまで2件以上の場合は、1件ごとに10円でしたが20円になりました。

4月の

当直医

休日当直医院は、富士市医師会が急病者のために定めたものです。ところが、最近、かかりつけの医院がやすみなのでみてくださいと、当直医院に来る人が多くなりました。特に医療センターに多く、急病者の診察に支障をきたしていますので、当直医院は急病のときにだけご利用ください。

■4月6日

- 外科 藤井医院 (松岡 61-7811)
- 芦川病院 (中央町2 52-2480)
- 産婦人科 池谷医院

(水戸島本町 61-0873)

■4月13日

- 外科 宮下医院 (平垣 61-0376)
- 米山病院 (吉原4 52-3060)
- 産婦人科 中央病院(本市場61-8800)

■4月20日

- 外科 中央病院 (本市場 61-8800)
- 秋山医院 (富士岡 34-0075)
- 産婦人科 谷医院(八幡町 61-0039)

■4月27日

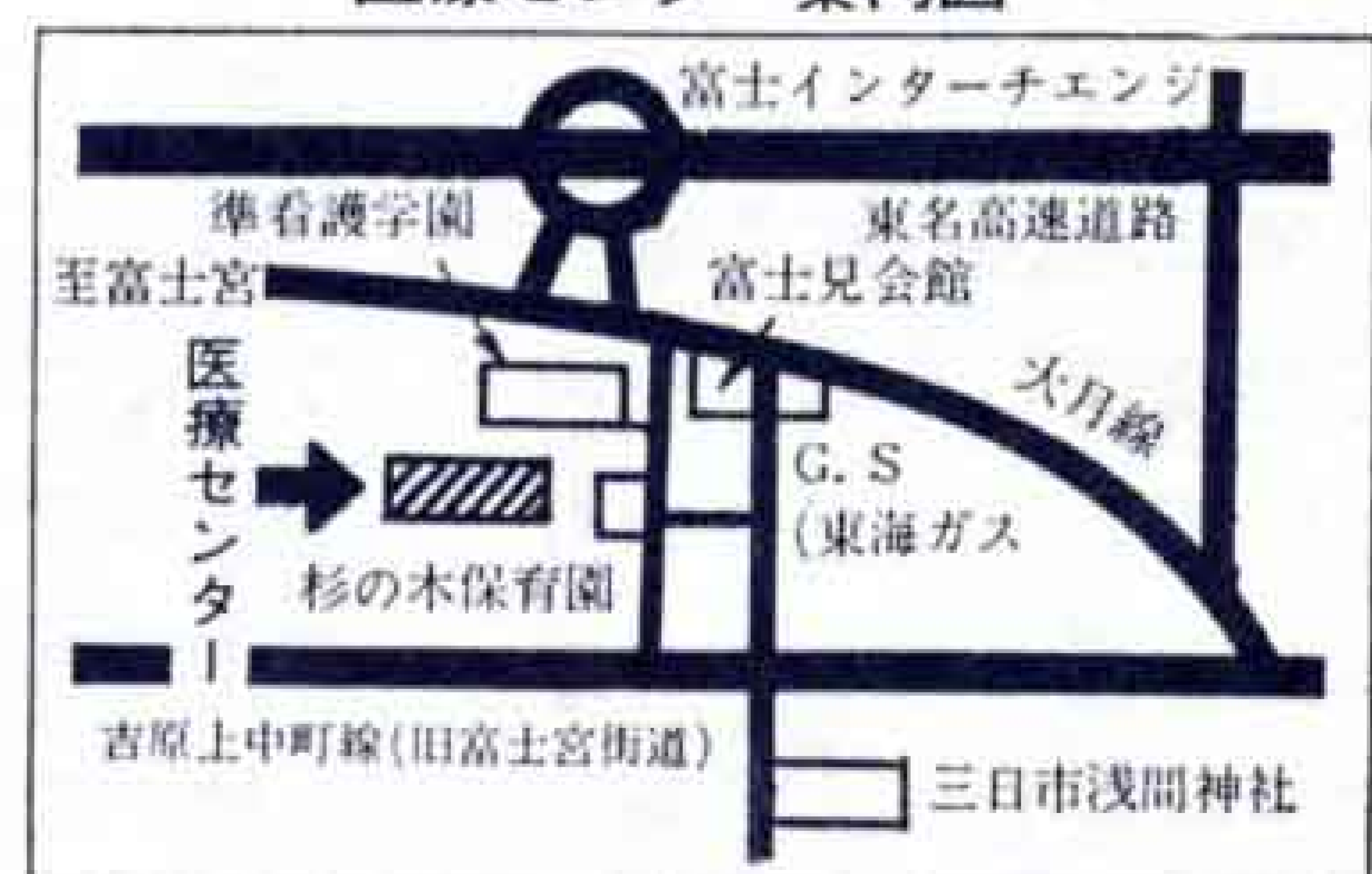
- 外科 鈴木医院(宇東川東町52-2213)
- 米山病院 (吉原4 52-3060)
- 産婦人科 鈴木医院(今泉1 52-1712)

■4月29日

- 外科 松本医院 (久沢東 71-2570)
- 渡辺病院 (錦町1 51-3751)
- 産婦人科 武田医院(西宮島63-5122)

※内科、小児科は富士医師会が「医療センター」で行っています。診療時間は午前9時から午後5時までです。ただし受付時間は4時30分までです。医療センターでは、日曜祝祭日以外は行っておりません。

医療センター案内図



医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2 (長者町)」電話は52-3104です。

火の用心・火の用心・火の用心・火の用心・火の用心・火の用心

恐ろしいビル火災を想定して パピーで総合消防訓練



ビル火災の恐しさは、これまで全国で発生した火災の例を見てもみなさんおわかりかと思えます。そこで富士ショッピングセンターパピーでは、春の火災予防運動期間中の3月15日、総合消防訓練を行いました。

訓練は4階から火災が発生したことを想定して、社員の火災発生時における避難、誘導、消火、通報連絡とハシゴ車による救護活動などを行いました。

みなさん、火の元は注意するにこしたことはありません。外出する時寝る前の火の元点検を必ず行って、尊い生命、財産を守ってください。

火の用心・火の用心・火の用心

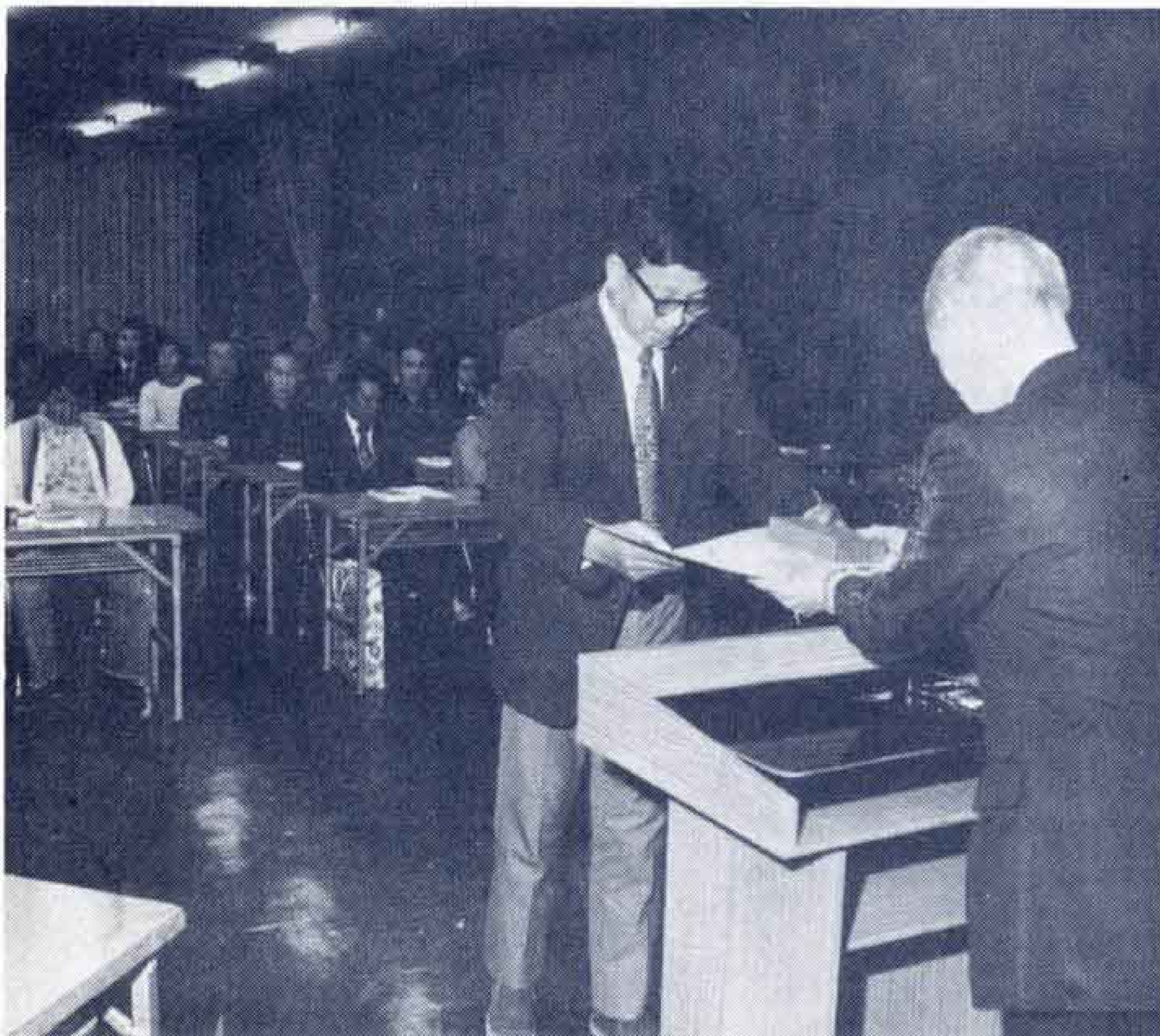
市民文芸の入賞者を表彰

富士市民文芸も第11号をさきごろ発刊しましたが、入賞者の表彰式を3月11日富士文化センターで行いました。

市民文芸は市民のみなさんから小説、評論、随筆、詩、短歌、俳句、川柳などを募集

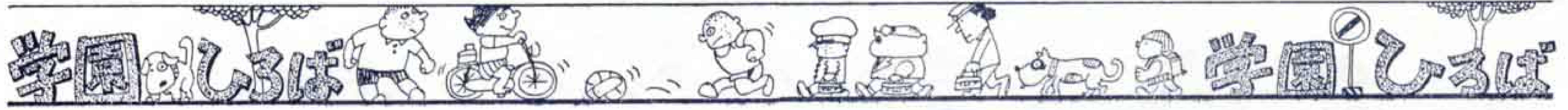
し、優秀な作品を1冊の本にして毎年発刊しているものです。今回は1233点の応募作品がありました。

なお、表彰式のあと作家の小川国夫先生を講師に、発刊記念文芸講演会を行いました



昨年生まれた赤ちゃんに サザンカをプレゼント

昨年市内で生まれた赤ちゃん4051人の成長を記念して、全員にサザンカの苗をおわけしました。サザンカは、童謡にもあるなじみの深いもので、11月から3月ごろまで咲きます。今回おわけしたサザンカは3年生の赤と白の2種類です。大切に育ててください。



ふるさとの歴史 ②

稲をつくりはじめた人たち



【図書館に保存してある弥生式時代の土器】

このへんに人が住むようになったのは、いまから1万2000年くらい前だといわれていますがおよそ2000年前（弥生式時代）になると稲をつくって食物にすることをとおぼえました。また、石の道具や土器しか知らなかった人たちは、だんだん鉄や銅の道具を使うようになりました。そのころの人たちが住んでいた跡が船津、宇東川、沖田など20カ所ほどあります。

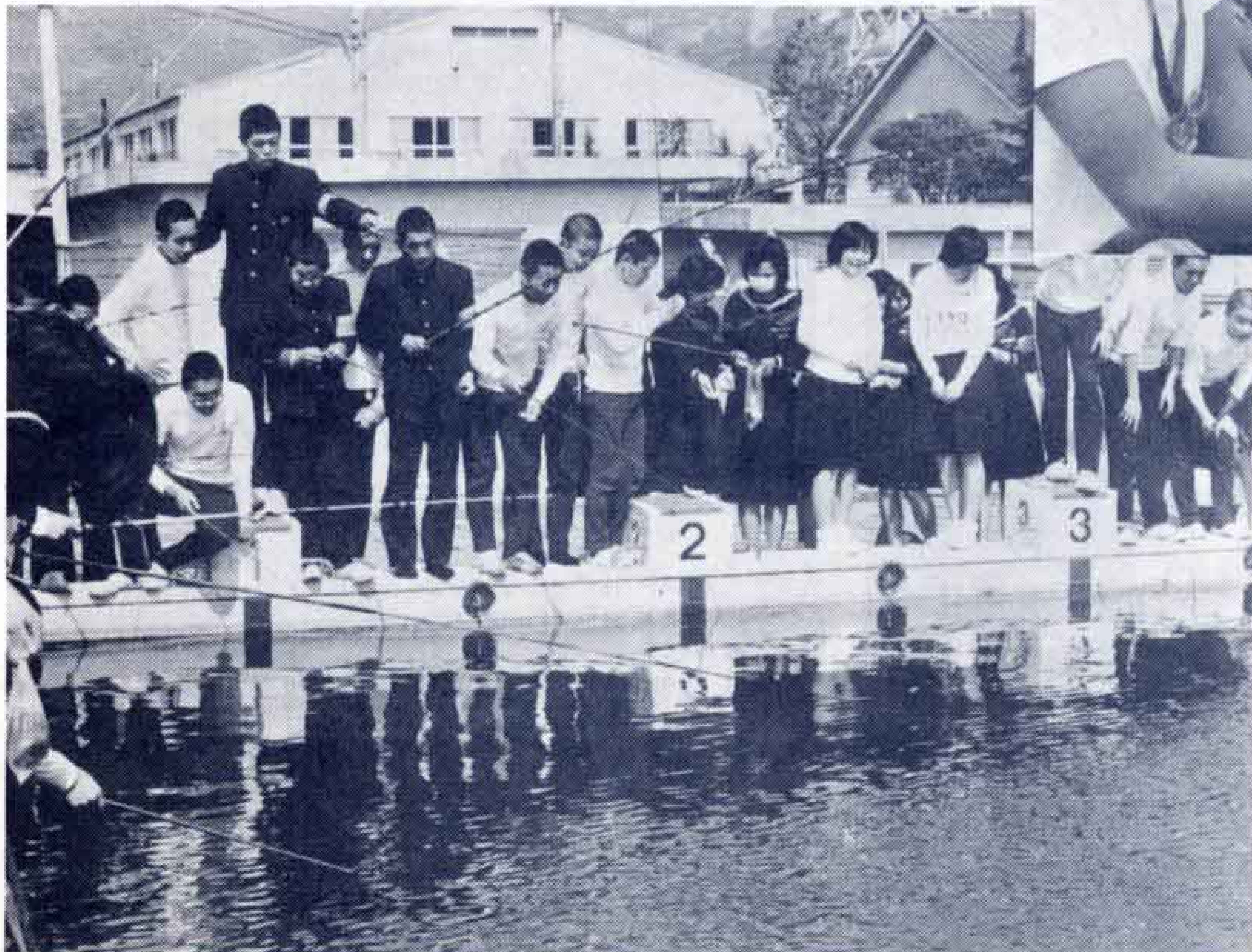
このころになるとひとつの部

落もだんだん大きくなって、共同で生活を営むようになります。その部落の中には力の強い長が出てきます。

前号から富士市の歴史をのせていますが、これからふるさとシリーズとして歴史をはじめ史蹟、伝説などをのせていきます。みんな、のせてほしいものがありましたら、市役所広報広聴課までご連絡ください。

つり大会で卒業生を送る

中学生生活最後の思い出にしてもらおうと、須津中学校では3月18日、卒業生を送るお別れつり大会を学校のプールで行いました。プールには昨年10月錦ゴイ2000匹を放し、給食のパンなどで育て、平均10疰、中には20疰以上もある大物がいます。大会は、卒業生141人がはじめにつり、その後で1・2年生。みんな魚がつれるたびに歓声をあげ、またたくまにバケツいっぱいになるほど、楽しいお別れつり大会でした。



楽しかった卒業生を送る会

みんなの学校では、卒業生を送る会でどんなことをやったかな。

丘小学校のお友だちは、卒業生に歌や紙ペンダント、寸劇などのプレゼントをしました。また、卒業生からは歌のおかえしと、移植の竹へらを下級生全員に贈りました。